
海の観光拠点整備基本計画作成に係る第1回検討委員会

会議要旨

令和4年9月1日(木曜日)

会議次第

- 1 開 会
 - 2 あいさつ
 - 3 委員紹介
 - 4 委員長及び副委員長選出
 - 5 議 事
 - (1) 海の観光拠点整備事業の概要について
 - (2) 基本計画作成スケジュールについて
 - (3) 海の観光拠点整備基本計画作成の検討に関するアンケート結果について
 - (4) 基本計画作成業務委託に係るプロポーザル審査会委員の選出について
 - (5) 海の観光拠点整備事業に関する自由討議
 - 6 そ の 他
 - 7 閉 会
-

午後2時開会

次第1 開会

次第2 あいさつ 大山町長 竹口 大紀

大山町の海の観光拠点整備の計画は、観光拠点であること以外にほとんど何も決まっていない。事務局からの提案以上にご参加いただいているお一人お一人の意見が非常に大切な検討委員会である。大山町では、大山町アウトドアライフ構想ということで、大山町の海から山までの資源を活用して、この地域に住んでよかった、あるいは大山町を訪れてみたいと思っていただける方が少しでも増えるようにまちづくりをしていこうと取り組みを始めたところである。大山町アウトドアライフ構想においても、海の観光拠点というのは、非常に大きな例となる大切な施設になると思っている。単に建物を作るだけではなく、そこに人が訪れ、大山の自然をしっかりと味わっていただけるような仕掛けができないか、皆さんと一緒に考えたい。

次第3 委員紹介

次第4 委員長及び副委員長選出

委員長 鳥取大学 地域学部 教授 多田 憲一郎 委員
副委員長 鳥取県漁業協同組合御来屋支所 支所長 二宮 瑞穂 委員

次第5 議事

議事(1)海の観光拠点整備事業の概要について

事務局 大山総合計画における大山町を理想的な町につなげることにに関して、形にしたものの一つが大山町観光戦略である。テーマは「大山の環境に配慮して、大山の資源を生かしたアクティビティが楽しめる持続可能な観光地域づくり」で、国立公園を主軸とした観光を維持しつつ、海側観光の魅力創出によって、持続可能な観光地域づくりをめざす。取り組みを進める上で、今回の海の観光拠点整備事業を検討している。海拔0メートルから1729メートルの豊かな自然環境がまちの魅力の一つと言えるところから、この大山町の豊かな自然環境を生かして、海と山をつなぐ町内周遊観光や体験滞在型観光の推進によって地域活性化を図ることを目的としている。

委員 例えば、老朽化した漁民アパートを建て替え・移転などすることによって、駐車スペースなどの活用ができる場所として検討が可能か。漁業者の利用という観点で、網の修理であったり利用しなければならないスペースの確保であったり、そうした必要がこの区域の中にあるか。

事務局 漁民アパートは、ご意見を今後検討させていただく。区域内のスペースは、護岸沿いの漁具が置いてあるところを除けば利用できるという認識でいる。

委員 今は網を全体に広げて修理をしているが、網を全体には広げずに畳みながら直すことができるので、漁協施設の海側にいくらかスペースがあれば多少融通がきく。お魚センター横の倉庫は、移動するかお魚センターを利用するなどすれば撤去することもできる。

委員 毎年恒例の花火大会をやっているが、何か建物が建った場合に消防署が打ち上げを認めてくれるか確認をしてみないと難しい。

委員 あまり自動車が通らない海沿いのコンクリートの道を今回のプロジェクトで何か考えるという発想はないか。シーサイドは、海の観光を考えたときに、外国人から見たら、この長い海岸にすぐときめくものだが、このプロジェクトでそこまで含めて考えることができるか。

事務局 皆さんは、もっと広いことを考えておられたり大山との関係であったり、いろいろなご意見がある。土俵は御来屋漁港の赤い枠のエリアだが、赤い枠以外とどうつないでいくかということも大きな課題と思う。ここを拠点としながらサイクルロードとどうつながっていくか、海のアクティビティといっても漁港できるものとできないものとの関連をどのように持たせるのかなど、いろいろなアイデアが出てくるかと思う。そういうものは、また別な場で具体的なプランにつながることを考えていきたいと思うので、発展性を持つものとして拠点を整備できれば、より広く大山町全体としてということに、この議論を反映していきたい。

議事 (2) 基本計画作成スケジュールについて

委員 業務委託の契約締結まで時間があまりないが委託業者は決まっているか。

事務局 業務委託の業者選定はこれから行う。選定方式にプロポーザル方式を採用し、業者からの提案に対して審査を行い、最も優秀だと思うところと契約をする。提案してもらった素材となるものを、この検討会の意見やアンケートの結果を踏まえて作成し、業者選定に入っていくスケジュールになる。

委員 公募の方法はどうか。

事務局 役場各庁舎で文書を掲示する方法と大山町ウェブサイトで公表する方法となる。

委 員 検討委員会が5回設けられているが、今年度3月中に結論がでなかった場合はどうなるか。

事務局 回数や検討事項が増えた場合は、4月以降に延長して検討委員会を行う可能性がある。

委 員 プロポーザルでも委託業者を早く決めなければならない理由は何か。単に海の拠点エリアをどうするかということから入るのではなくて、本来的には、山があり海があり、大山町全体をどのようにつないでこの拠点を生かしていくかということを考える中で、どのような機能を持たせることによって町全体の活性化になり集客につながっていくかということを、特に業者に専門的に我々の仕事の意見を形にさせていただけると思う。そういった意味もあるなか中で、本当にこちらの思いを受け止めた形でやっていける適切な業者を選ぶことができるのかという不安を覚えた。

事務局 整備基本計画を作るための支援業務というのがこの業務の内容なので、プロポーザルの提案内容で全てが決まることにはならず、その後の検討委員会のご意見をいただきながら、同時に委託業者にも会議に参加をいただきながら、最終的に詰まってくものについて形にさせていただくものと考えているので、できるだけ早めに業者選定をして並走していきたいと考えている。

委 員 プロポーザルの判断基準が曖昧にならないかと感じるのので、何か具体的にある部分を方向が見えてきて、それに専門的な視点をいれていただく業者ということなら理解できる。

事務局 ご意見を基に手続きの検討を重ねたい。

(議事は原案のとおり承認)

議事(3)海の観光拠点整備基本計画作成の検討に関するアンケート結果について

事務局 アンケートは、令和4年8月9日から8月29日までの間、鳥取県電子申請サービスによるインターネットで回答ができる方式と町内施設にアンケート回収箱とアンケート用紙を設置する方式で実施した。回答者数は合計で67人、内訳は電子が50人、紙が17人であった。詳細は資料のとおり。

午後3時20分 休憩

午後3時25分 再開

議事(4)基本計画作成業務委託に係るプロポーザル審査会委員の選出について

事務局 プロポーザル審査会委員の選出について、本会の委員長及び副委員長をプロポーザル審査会への選出するよう事務局から提案する。

委 員 本会の委員長と副委員長以外の委員はどのような方か。

事務局 現時点で7名の審査委員を予定しており、大山町役場の副町長や関係各課の課長から5名を選定する予定である。

委 員 プロポーザルの内容を委員長と副委員長以外の委員が知ることができるか。プロポーザル審査の採点基準・結果・意見など検討委員会が知ることができるか。

事務局 通常、募集に関する資料は、ウェブサイト等で公表するので、そちらで確認できる。審査基準や審査の内容は、審査委員限りとしており公表していない。

委員 資料を読むといろいろなことに気づくので、資料を読んでもう1回検討委員会してから、業者選定したほうが良いと思うがどうか。

事務局 次回の検討委員会で整備の方向性の検討となっているが、おそらく今日皆さんの意見を十分に出していただくのは難しいと感じている。いくつかの論点を整理して、もう1回議論していただく必要があることを考えると、何が論点なのか明らかになったところで選定していくということに妥当性があり、そういう方向で進めたいと思う。

委員長 丁寧な審議をしたいということで、スケジュールが変わるが、そういった形でお願いしたいと思うがよろしいか。

(業者選定の前に検討委員会を開催することに決定)

委員長 3番の(4)の参加資格の確認は、4番のプロポーザル審査員の役割の(1)の審査要領や実施要領を見て参加資格を確認するということか。

事務局 参加資格の確認は行政のみで行う。大きい3番の(2)募集公告が始まる前と、同じく(6)のプレゼンテーション及びヒアリング審査の二つのタイミングで審査委員にはお世話になる。

(議事は原案のとおり承認)

議事(5)海の観光拠点整備事業に関する自由討議

委員 拠点を通していかにまちづくりができるかが大事なこと。拠点をつくることも大事だが、それ以上にそこに住む人たちがどれだけ楽しい魅力あるまちづくりをできるかがポイントとなる。大山がいかに魅力あるまちか、日本にとどろくアウトドアタウンになるかということをみんなで同じような思いを持って進めていくべき。

委員 今、子供が誰も海で遊べないので、海岸や岩場でもいいがあまり危なくない場所で、遊ばせてあげるような施設があるといいと思う。昔、イベントで60人乗りの船をチャーターして、海上から御来屋沖を走って見せてあげようということで、御来屋の夕日が沈むところを見たらすぐ感激されると思うので、ああいうもの生かすような施設ができるといいと思う。昔、御来屋振港といって、古民家の二階を使って料理を出したが、都会から来た人はそれに感動しておられて、ただ海が見えて、刺身の盛り合わせがあって、わかめ御飯があって、わかめの醤油かけただけで、魚が付いて、それでも他よりここで食べたいと言われる人が多かったので、他所行きでなくて地元の素朴な感じを出すような施設もいいと思う。

委員 お客さんは、まず大事なのが地元の皆さんだが、御来屋は昔に比べると人口も減ってきていて地元のお客さんばかりではやはり苦しく、県外の方とか町外の方とか多岐にわたってお客さんを獲得したいと思うので、ターゲットをどこに持っていくかが大事だと思う。アンケートにはカヤックやヨットとかいろいろあるが、漁港なので船の出入りがあって、物理的に無理ではないかと思っていて、何ができるのかを一つ一つ選択していくことが必要だと思う。駐車場の面では、波が高いときは、車が真っ白になるくらい潮をかぶるので、そういった面での対策も大事だと思う。今の飲食店は、車椅子で上がれない問題がある。2階建てだと海を眺められるが平屋建てだと見え

なくなるジレンマがあって、そういったことも含めてこれから考えていったほうが良いと思う。

委員 町全体の活性化による町全体で集客する施設として、地域の活性化につなげていくということならば、大山という大きな山の拠点があり、道の駅も相当な人が集まり、このお魚センターの海の拠点、さらには、今公募している山陰道淀江インターチェンジ跡地の活用、ここまだ白紙状態だということでこれから議論されると思うが、それぞれ連携をとらなければいけないと思いますので、そういったものは、情報提供としてこの会議の中に出して議論していくことになるのか考え方を聞きたい。

事務局 淀江インターは、別枠で検討するようになっているが、当然、関係してくるものと思っているので、役場の中で両方つないでいかなければいけないと思っている。

委員 夕日がものすごい価値のある大山町だと私も思っていて、それにもっと付加価値のある「からくり」をつくらせたいと思う。アンケートでフィッシングなど回答にあったが、御来屋また大山町の沿岸の漁獲量とか順調なのかどうか不安を感じている。長男が御来屋でバイトしていたが、3年前と比べて呼ばれなくなったとか、素潜りの漁師さんも海が変わったとかお話をされていて、食べ物が御来屋のまたは大山町の観光拠点の柱の一つになるわけですから、海を元気にする手段を考えたいと思う。何かわかる方法があるか。

委員 地球温暖化で水温が上がってきていて、回遊魚が上がってこなくなって、ここ二、三年はサワラもほとんどと言っていいぐらい水揚げが下がって、スケールが大きいことになるので何ともできないが、燃料も高騰している中、漁には出でられるが漁師さんも生活がかかっているんで、全て漁業でどうかというのが一言には言えないが、努力はしていくというので、潜水のほうはウエの駆除をしたりして、できるだけ放流したサザエとかが食害を受けないように頑張っているところ。

委員 森が元気だと海が健康になるとか、海藻を育てると沿岸が元気になるとか、例えば、一部の沿岸で海藻に力を入れて、そういうのを専門家に調べてもらって、できることがあってやらないのはもったいないと思う。

委員 旧名和町あたりは、名和川、真子川、阿弥陀川と川が三つあって、森と海の関係は大いにある。プランクトンと海藻、御来屋のワカメやサザエがおいしいのは、その辺が漁場としていいので、期待ができるのではないかと考えている。

委員 アンケートの反響が少なかったことがショックで、いろんな人と話をしたが関心が薄いというか「どうせ」みたいな感じがすごかった。アンケート結果を見て、今のこの計画の場所で全て賄うというのはやはり難しいと思う。お店が出来たりとかアウトドアにつなげたりとか、ほかの観光につなげるというので、例えば、夕日公園というところがあるが夕日がすばらしくて、広大な土地なのでキャンプ場にするという可能性も、この御来屋漁港とは別に連携して将来的にはなったらいいのではないかなと聞いて、町としても考えてほしいと思う。

委員 観光拠点だけではなくて、例えば人口減少を食い止めることとか、御来屋や大山町の良さを知ることができるスポットになったらいいと思う。良さを知ることによってUターン・Iターン・嫁ターンにつながり、情報が集まる海カフェみたいなものに地元の人や観光客が集まり、そこにコーディネー

ター的な人がいて、人と人を結んだり、人と物を結んだり、物と物を結びつけて仕事を生み出していくようになったらいいと思う。皆生にバリ島をコンセプトにした温泉施設があるが、御来屋も以前ハワイの人たちが来て絵をかいたり、アートがあったりするの、ハワイをコンセプトにするのも面白いと思う。

委員 話に出るのは、人が減っていくのは働き場がないということで、まずここに第1の問題があり、人が逃げれば空き家ができる。この空き家対策も考えてみたが、なかなか動きができないということで、次にやってきたのが、アートでのまちづくりで、3年前に海岸のほうにアートをつくった。これから2年ごとに少しずつ広げていくことにしている。泊るところがないが問題で、漁火とか夕日とか話が出ますけれども、夜まで居てもらわないと見ることができないので、建物ができるとすれば宿泊施設を考えてもらったほうがいいと思う。

委員 その場所の拠点づくりだけではなく、もっと広域につながることを重要だと思う。それを前提として、その住民の方がすごく楽しそうに暮らしているところに観光に行きたいと思う。滞在する場所が複数あることは観光に行くときに選ぶ理由になると思っていて、御来屋全体をエリアにして港が玄関となってそこから海岸のほうに歩いていけるような仕組みが必要だと思う。御来屋の街道は、町側の顔と海側の建物の顔が全く違う魅力があって、海側のこの集落の景色もすごく魅力的で、大きな邪魔される建物もない場所なので、貴重な風景としての財産があると思っている。御来屋の空き屋は、短冊状の空き家や空き地が多くて、マイナスのイメージもあるが街道のほうから見ると海がスッと抜けて見えるのは、捉えようによってはすごく魅力的な土地がたくさんあるというふうに思っている。プロポーザルの業者には、その周りの視野やストーリーを考えて協力的にしてくれる業者になるといいと思う。また御来屋だけの拠点ではなく、例えば、サイクリングロードが弓ヶ浜のほうまであったりだとか、サイクリングする人は美保関の方まで行ったりするので、広域的な拠点としての役割というのがあると感じている。

委員 大山町海側のアクティビティを楽しまれる方は、サーファーが一番多いイメージがある。サーファーは、シャワーを持って来られることが多いが、そういうものがある場所があればという意見はよく聞く。カヤックは、鳥取県全体でいうと岩見と皆生が主なエリアで、大山町自体は定着をしていないので、漁港の中でカヤックするのは難しく、ほかの場所にカヤックを持っていくなど動線も含めた形で検討しなければ定着しないと思う。自転車もしているが、御来屋は大山町の中心にあるので、アクセスする上ではすごくいい立地があるので、何か活用できたらいいと思う。山陰は雨が多いが、例えば鳥取市にあるかっこ館みたいに、海の生き物や魚に触れられる子供たちが楽しみながら半日でも1日でも過ごせる環境があれば、雨だから御来屋に行ってみようと思う。

委員 夕日だとか割とSNSで風景が上がっていることが多くて、小さい頃は当たり前の風景で特に魅力を感じることもなかったが、自然を求めてこられる方は多いと思う。父が子供の頃海で遊んだりだとか川で遊んだりとか、自由にしていたように思えるが、私が小さい頃や今は危ないから近寄らないと言われることのほうが多いと思うので、甲川溪流まつりみたいなことを海でもできたらいいと思う。

次第6 その他

事務局から諸連絡。

次第7 閉会

事務局 何をするかというアイデアをいろいろ出していただいたが、誰がどのようにするかというのも重要となる。そういったことも含めて次回、ご意見もいただきたい。

午後4時30分閉会